

第Ⅴ期

— 「思考力」が「**人間の価値**」を不動にする —

高次元経営(信頼の組織)への パラダイムチェンジ
— 「機械論パラダイム」から「有機体システム思考」へ —

第4講

新たな価値を創造する問題解決「システム思考」

(二) 有機体システム思考がいかなる問題解決も可能にする

令和6年8月23日

講師：楠本浩之

主催：一般社団法人 日本的経営研究会

経営人間学講座 道場清規

一、経営とは、経世済民の高い志しを、実行に移すことである。

一、経営とは、人間の究極の理想と目的を、実業の現場で実現することである。

一、経営とは、人間のもつ無限にふかい可能性に、確信の信を置き、価値の創造に努めることである。

一、経営とは、人間のもつ最も醜い力を、もつとも美しい価値に、転換させることである。

一、経営とは、いかなる絶望的な境遇にあっても、その中からつねに智慧と力と勇気を、奮い起こすことである。

本日のお話

■はじめに

■学習組織体

■あなたに問う 「自立」とは何ぞや
「依存」と「協力依頼」との関係性は？

■あなたは自分の専門領域で、どのようにして新しい視点を見つけますか？
・ニルス・ボーアの言霊

■高い思想との出逢いを得て、学び続けることで得る人間の喜び ②

— 本 講 —

経営人間学講座 2012 年 第 8 講

新しい価値を創造する「システム思考」の確立

— 竹内日祥上人ご講義の筆耕より 一部抜粋 — ②

自己組織性の原理

相互共存性の原理

— はじめに —

5月16日・第2講の「はじめに」にてお伝えした事(一部)

■私の今後(今)のご報告

- ・4月1日付で、「株式会社 高次元経営実践研究所」を設立しました。
- ・これまでの社会的・常識的立場での社長という法的立場からは完全に離れます。
これは、新しいカタチの事業継承と言えるかもしれません。
- ・これまでの各法人に於いても、全メンバーが依って立つ「同志手帳」、私という人間ではなく、私自身、理念・目的を最も確信する者ではありますが、柱はあくまで、同志手帳(理念・目的)そして、「有機体人事制度」。思想的組織は、この2つが揃っている事だと思います。
- ・これまでも、評価は自分たちで、採用も自分たちで、仕事も自分たちで創る。
そして、相互に、支え合い、助け合い、厳しく迫る。育て合う。理念を媒介(原点)に、目的に向かって。
- ・近い将来、私は、法的根拠も立場もなくなりますが、これまで通り、全力でKアライアンスメンバー、一人ひとりを支えて、強く、しなやかに、強者(つわもの)にしていきます。
- ・たった今も既に私が居ても居なくても、何も変わらず業務は進んで行っています。私が厳しい事を言ったり、要求しても、それが自分の事を思い、考えての事だと受け止めてくれているからこそ、各自の主体性です。私が自分の為に、ただ単に会社を上手く行かせたい為ではない、その事を明確に受け止めてくれているからです。

■統合学術研究所の再生について

- ・この件については、第4期・第2講に於いて、「ドイツ・ハノーバー-EXPO 国際フォーラム 2000」の背景と意図と共に、ほんの一部ですがご紹介させて頂きました。今期も、その続きを開放させて頂きます。経済・技術の祭典で、宗教対話を実現するという、思いもよらない事を行い、イリヤ・プリゴジン先生を訪ね、同時に世界のアカデミズムの中に、あの「統合学術国際研究所」を独・日に創造されました。
これを一から再構築しなければなりません。
- ①これに全力を掛ける事と、②現Kアライアンスメンバー一人ひとりを強くする事と、③受講生の皆さんのお役に立つ事は、私の中でひとつに統合されています。

■受講生の皆さまとの関係性

- ・受講される皆さま、おひとりお一人に、それらを支えて頂いている、という事になります。

— 学習組織体 —

社内起業家 $\overset{\text{つまり}}{=}$ 自立 $\overset{\text{してからの}}{=}$ 共同体 $\overset{\text{それを}}{=}$ 支援する経営者 $\overset{\text{つまり}}{=}$ 教育者 $\overset{\text{そして}}{=}$ この連鎖の継承
「この連鎖の継承」が「**組織の継承**」であり、この「**組織の継承**」が、国家(日本)の継承
と世界(人類)への貢献となる。

「高次元な経営(**学習組織体**)」を目指す。

これからの人(人生) $\overset{\text{自己と向き合い・自己に正直に生きる・その組織を求め、出逢い、}}{=}$
そして、自らが創造する人(人生)となる。

自らの人生を、自らが創造する「アーティスト」

それが、新しい形(カタチ)の「働き方」

これを目指す時(今)、これまでの歴史・プロセス(過去)と、これから(未来)の新たな形(カタチ)を統合する日々の戦いとなる。

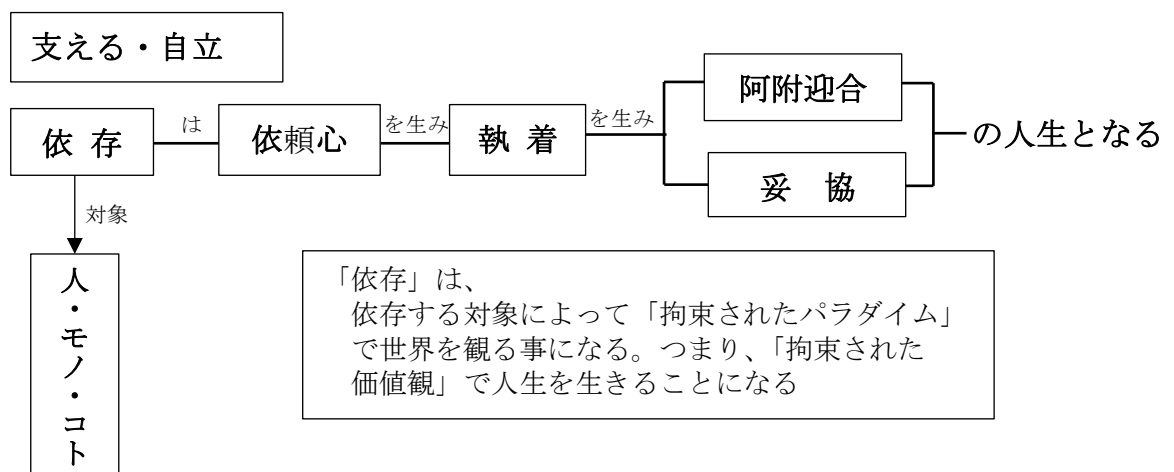
その時、

必要となるもの $\overset{\text{とは}}{=}$ 高い価値観に基づく「**理念**」と目指す「**目的(志)**」

経営の現場 $\overset{\text{とは}}{=}$ トップ・上司・部下・顧客と[共に学び]、対話し、共に行動に出て、
また学ぶ場。このプロセスで、必要な知識・技術・資金・人脈・生き甲斐・喜びを創造する場。人間としての成長の場。

※それらは、厳しさを伴うからこそ、手に入るもの

■新しい経営のカタチ(学び・行動する場)の根拠



歴史を踏まえ、常に「アントレプレナー」(起業家) 新たに事を起こす経営(者)

すると↓メンバーは

「イントレプレナー」(社内起業家)として 新たに事を起こす経営(者)

「新たな事」を起こし続ける者同志(学び続ける同志) → 共同体

※イントレプレナー : 次世代のリーダーとして、高い志と、それに基づき求め続ける感度の高い情報・アンテナ、そして組織構築や商品開発といった価値の創造の為、経営を全体(関係性)で観る力を持って、主体的に生きる人

教育のパラダイムチェンジ

2022 年 世界各国・地域 15 歳の子供の学力を測る、国際学力調査「PISA」OECD 81 ヶ国

日本は…

- | | | |
|------------|-----|--------|
| ・ 科学的リテラシー | 2 位 | } 悪くない |
| ・ 読解力リテラシー | 3 位 | |
| ・ 数学的リテラシー | 5 位 | |

2023 年度 全国学力テストの結果

小 6・中 3

国語などでは、自分の意見(考え)を記述する問題が若干苦手な傾向

2021 年度 スプリックス基礎学力研究所 発表

「なりたい職業はない」 30.6%

- ・ 原田教育研究所(原田隆史) → 大谷翔平、大企業、自立は他者や社会の存在が鍵
頑張るのではなく、頑張る理由(根拠・背景)が鍵だった

— 自立を促す教育 —

インプットで、暗記をしてため込む(教育)から、それをアウトプットして、みんなで何とかしようという教育に時代が全く変わってしまった。

戦後は、「独立型教育」。AI・ITが無いので、どれだけの情報と成功事例を沢山の国や我々が吸収するか「インプット命の時代」 27 ヶ国→オランダ・フィンランド・デンマークの北欧の教育が「自立型教育」で凄い、と言われ、問題

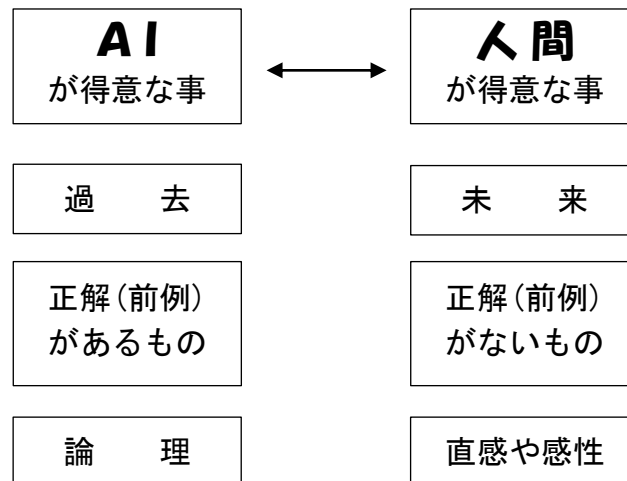
- ・ 和歌山県橋本市、きのくに子供の村学園 → 試験・宿題・通知表・先生、全て無し
→ 卒業してそれぞれ異なる高校へ、全て上位 1 割に入った。中東の石油関係、米国の金融機関で活躍。

アルメニアのTUMO教育の3つの特徴

- ①自主学習と自律性の強化
- ②クリエイティブとテクノロジーの融合 → 音楽・芸術との統合
- ③専門家との交流と実践的経験



創造力を養う為の教育



あなたに問う。

「自立」とは何ぞや？

真の自立とは、

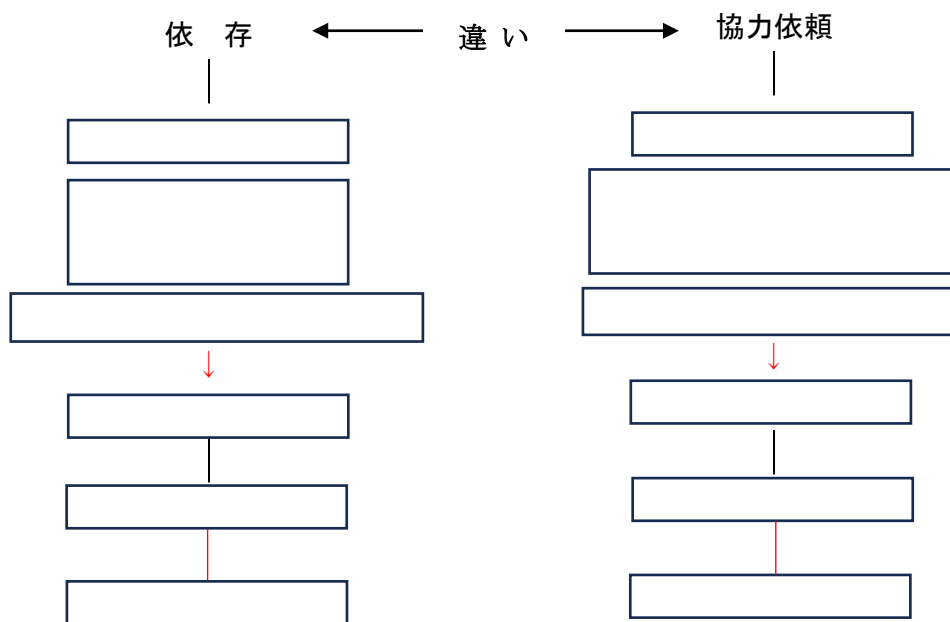
||

||つまり、



あなたに問う。

「依存」と「協力依頼」との関係性は？



「私、分かっているんです」

これは、[私は分かる] という前提] が無ければ出て来ない言葉

↓しかし、

そもそも[分かる話] は、していない

↓だとしたら、

それは？ 一体、何か？ 何故か？

↓ただ1つ

[自分の価値観] で聞いているから、という証明の (言葉)

↓だから

その[自分の価値観]をまるで信じて、全く疑っていない事実 (恐怖)

↓もし

相手の価値観で聞いたら、[分からない所が分かる] となる

↓すると

「気付き」からの質問・確認となる筈 (ならざるを得ない)

↓この

「分からなかった所」が 「分った」という事を何と言うか？

↓それを

「無知の知」という

↓この人を

[成長] する人、している人

と言い↓また、この人は

「学び続ける人」

と言い↓この人は

歳を取る度(重ねる毎)に、運がよくなる人 (充実という安全・安心を手に入れる人)

↓この人は

必要とされている人

であり↓実は、この人

今、現在、既に、幸せな人生を歩んでいる人

そもそも、対話に於いて、相手の話を分かる、分かった、というのは、相手にしか判断が付かないにも関わらず、勝手に、何の断りもなく、「私、分かっている」と、自分の、その人の価値観で、勝手に独断的に決める。そんなバカな事に何も疑問を持っていない自分教の信者

2020 年 グローバル・経営者フォーラム in 九州

特別講演 「未来を拓く抜本革新の断行」 別添資料 5 頁 より

— ソルベイ会議 —

アインシュタインは後年、次のように述べた。

この理論のことを考えていると、

すばらしく頭の良い偏執症患者が、

支離滅裂な考えを寄せ集めて作った妄想体系のように思われるのです

あなたは、自分の専門領域で、
どのようにして、
新しい視点を見つけますか？

— 「専門家」とは、あらゆる可能性を排除した上で、
(プロの仕事人) **敢えて 間違いを犯す人のことだ** —

(これからの仕事)

《 量子力学の先駆者ニルス・ボーアが語った言霊 》

(これからの生き方)

この言葉は、
これまで信じて来た自分の価値観(パラダイム)という
「限られた視点」で考え・判断・決断することで、
同じ次元から脱却することができるチャンスを逃してしまう、という
「間違いを犯す」可能性があることを指摘しています。

従前の価値観(パラダイム)から見れば、
異次元からの提示は、「間違いを犯している」としか見えない

彼は常に新しい視点を持ち続けることの大切さを信じていました。

科学において間違いを恐れずに挑戦する姿勢こそが最も重要だと考えていたのです。

ボーアは科学者としての成功だけでなく、同時に人間としての成長も大変大事にし、重要な事としていたので、彼は、他の科学者たちとの意見を交換し協力すること(対話)を重視していたという姿勢が、彼の研究において多くの新しい発見を読む原動力になりました。

ボーアは生涯を通じて科学の発展に尽力し続け、1962年77歳で亡くなるまで、科学界で尊敬される存在であり続け、そして、亡くなって尚、彼の研究や思想は今でも多くの科学者たちに影響を与えています。

「常に新しい視点」を持ち続け「挑戦」することの大切さをボーアから学び、感じ取ることができます。

彼のこの言葉の背景について

量子力学と言う科学分野は、当時の科学者たちにとって非常に難解で且つ、とても理解しづらいものだった為、ボーアの研究は、数々の苦悩や挑戦を伴っていました。ボーアは其中で多くの試行錯誤を繰り返し、何度も**非難を浴び・失敗を経験し**、それでも彼は諦めずに研究を続け、新しい理論を提唱し続けました。例えば、『ボーアモデル』を提唱した時も多くの科学者たちから批判や疑問の声が上がりましたが、それでも彼は自分の信念を貫き実験や理論の改良を続けた結果、そのモデルが認められ、多くの科学者たちに**途轍もなく巨大な影響**与えることとなりました。

彼のこのような言葉の裏には、彼自身の苦悩や挑戦そしてその中で得た教訓が込められています。「間違いを恐れず」に、常に「真摯」に、「新しい視点」を持ち続けることが、どれだけ科学(人間)にとって重要で大切なことであるかを教えてください。

ニルス・ボーアが直面した批判や苦悩の背景には、当時の科学会の状況や、彼のやり方が大きく関係しています。

※「間違いを恐れず」→周囲の自分にとって重要な、偉大な、重大な、大切な人達や、当時の科学界の雑誌や記事と言った形で世間からの批判や中傷や疑問等を恐れず、の意で、つまり、これまでのパラダイムの人達から見れば、「間違いを犯している」事になり、また事実、何度も失敗を重ねる人、という意味。

当時の科学会の状況とボーアの研究方法について

ボーアが活躍していた20世紀初頭は科学の世界が大きく変わり始めた時期でした。それまでの物理学はニュートンの古典力学が中心で、物事が直感的に理解しやすい理論が支配していました。しかし、微小間粒子や原子のレベルでは、古典力学では説明できない現象が次々と発見されていた中で量子力学と言う新しい分野が登場しました。

しかし量子力学の概念はとても奇妙で、古典力学の常識からは完全に大きく外れていた。例えば、電子が特定の軌道を飛び越えるような振る舞いをすることや、粒子が波として振る舞うことなど、当時の科学者たちにはとてもではないが受け入れがたいものだった。

その中で彼は更に、この新しい量子力学の世界で『ボーア・モデル』と言う原子モデルを提唱した。

このモデルでは、それまで電子が特定の軌道を回ると考えていたけれども、これは当時の古典力学の考え方(パラダイム)とは根底から大きく異なっており、多くの科学者たちは、電子が軌道を飛び越えると言う考え方に対しては、とてつもなく巨大な抵抗感を持っていた。彼は実験と理論の両方を重視し、常に新しいデータや観察結果を取り入れ、常に自分の理論を改良していきました。しかしながら、このやり方自体もまた当時科学者たちには奇抜としか受け止められませんでした(アインシュタインをして尚)。

よってボーアは、多くの批判を受けながらも自分の信念を貫いて研究を続けました。その結果、彼の理論は徐々に理解され、認められ、多くの科学者たちに大きな影響を与えることとなりました。多くの批判や苦悩を乗り越えて、新しい視点を持ち続けることがどれだけ困難で難しいかがこの言葉には含まれている。と、同時に、真に重大なパラダイムチェンジは、この困難の先にある、という事を含む言葉であり、現パラダイム(これまでの常識)からは、真に新しい事は、常に奇抜・奇妙に見えるけれど、だからこそ新たな進歩が生まれる。という事を物語っている。

ニルス・ボーアの言霊もその革新性と創造性があったからこそ大きな影響を与えた言霊となった。

彼の言葉が、どんな影響や反響を生んだのか、
そして現代ではどう解釈されているのか、について

ニルス・ボーアの言う専門家は、

真に「新しい事」は時に奇抜に見えるけれども、あらゆる可能性を排除した上で(間違わない事では無く)間違いを犯す人(失敗を恐れない人)の事だと言う言霊。

これは、当時の科学界に大きな衝撃を与えた事に留まりません。

この言葉は、専門家たちが一度固定観念を捨てて、常に新しい視点を持つことの重要性を強調しました。確かに当時ボーアの考え方は一部の科学者たちには受け入れられにくかったけれども、同時に「新しい考え方にかかれた科学者」たちには大きなインスピレーションを与えました。このボーアのアプローチは、後の科学者たちが量子力学をさらに発展させるための基礎となります。例えば、ハイゼンベルグやシュレーディンガーといった有名な科学者たちが、ボーアのこの考え方を元に、新しい理論を展開していくことになります。

現代においてもボーアの言葉は多くの分野で引用され重要視されている。例えば科学だけではなく、「ビジネス」や「教育」の分野でも新しい視点を持ち続けることの大切さを教え

てくれる。この言葉は、どんなに凄い専門家 (プロフェッショナル)であっても、常に学び続け、変化を恐れずに挑戦する姿勢を忘れないようにと言うメッセージを含み、また、現在の解釈としても専門家が、今の自分の固定概念にとらわれることなく、多様な視点を取り入れて、柔軟に対応することが示唆されている。

「新しいことに挑戦する」その「勇氣」と常に「学び続ける姿勢」の大切さ、「多様性を受け容れる素直さ」この事の重要にして重大さを我々に伝えてくれている。

私たちが未来に生かせることについて

「今の固定観念を捨て、新しい視点を持つ意識」

⇨逆は、自分は正しい。相手がおかしなことを言う

「失敗を恐れず挑戦する」⇨失敗しないようにする事を良しとする、になっていないか？

「他者との意見交換と協力を重視する意識」⇨討論に勝つことではなく、対話こそが価値を生む

「継続的な学びの姿勢を持つこと」→諦めない、出来上がらない、傲慢にならない、真摯に

「科学的思考を日常に取り入れること」→ルーチン作業ではなく、疑問を持ち思考する事が仕事

「多様性を尊重し、多様な視点を取り入れること」→開放・境界領域を作らない・そして「素直」

多様なバックグラウンドや意見を尊重し、取り入れることで豊かな視点が得られる。

尊重 → 聞く・聴く・尋ねる・教えて貰う → 結果、知り合う

固定概念と言うのは、自分ではそのことに気づかない。そのため判断が難しい。

YouTube 【偉人の名言 深掘り】

— “固定観念の罠！科学界を揺るがしたニルス・ボーアの挑戦と挫折” より—

ご縁があって、この講義を聞いて頂いている皆さんへ

知らなかった事を知って、そこで満足して終わる人であってはならない。

現実の環境を変革する当事者であって欲しい。

「現実の環境を変える。それは私です!!」

「自己を！ 我社を！ 日本を！ 人類を!! …」と!!!

高い思想との出逢いを得て、学び続けることで得る人間の喜び ②

人の価値は、
その人が、「与えるもの」に宿る。
その人が、
「受け取ることができるもの」に宿るのではない

— アルバート・アインシュタイン（ドイツ生まれの理論物理学者） —

世界の秩序を描いたアインシュタインの名言

【教育と学びと知識と学問について】

《アインシュタインの言葉》

《自分の受け止め》

学校で学んだことを

全て忘れた後に残るものが、真の教育です。→

生徒は、詰め込むべき容器ではなく、→

火を灯すべきたいまつです。

知恵は、学校教育の産物ではなく→

生涯を通じて得られるものです。→

重要なのは、問い続けることをやめないことです。→

好奇心にはそれ自体に理由があります。→

愚か者でも知識を得ることはできます。

重要なのは理解することです。→

覚えなくても調べられることを

暗記してはいけません。→

教える(伝える)手段として例を示す事は、
他の方法ではなく、**唯一の方法**です。→

知的成長は、誕生から始まり、死ぬまで続くべきです。

→

教育とは、事実の学習ではなく、
考える力を訓練することです。→

学びを止めた瞬間から、死に始めます。→

学べば学ぶほど、自分がいかに何も知らないかを実感します→

好奇心が、形式的な教育を生き延びることは奇跡です。
重要なのは、問い続けることをやめないことです。

→

新しいアイデアに心を開くと、元の大きさには戻りません。

→

【人生のバランスについて】

人生は自転車に乗るようなものです。
バランスを取るためには、動き続けなければなりません。

幸せな人生を送りたいなら、
人やモノではなく、目標に結びつけなさい。

他者のために生きることだけが、
価値のある人生です。

真の**知性**の証は、知識ではなく「創造力」です。

困難の中にこそ機会が潜んでいます。

論理はAからBへ連れて行きますが、
「創造力」はどこへでも連れて行ってくれます

平和は「力」で保たれるものではなく、
理解によってのみ達成されます。

【社会と人間の本質について】

私は第三次世界大戦で
どのような武器が使われるかは知りませんが、
第四次世界大戦は、棍棒と石で戦われるでしょう。

時間が存在する唯一の理由は、
全てが1度に起こらないようにするためです。

どれだけ長く生きても、老いる事はありません。
大きな謎の前に好奇心を持ち続ける子供のように
立ち続けなさい。

世界中に知られているのに、
とても孤独であるのは奇妙です。

人生は未来の準備であり、未来の最良の準備は、
未来がないかのように、(今を)生きることです。

自分の限界を受け入れると、
それを越えることができます。

【挑戦と成長について】

失敗したことがない人は、
新しいことに挑戦したことがないのです。

挑戦を止めない限り、失敗すると言う事はありません。

非常識なことに挑戦する者だけが、
不可能を成し遂げることができます。

成功者になることよりも、
価値のある人間になることを目指しなさい。

知識の唯一の源は、経験です。

間違いを避ける唯一の確実な方法は、
新しいアイデアを持たないことです。

私には特別な才能はありません。
ただ、情熱的な好奇心があるだけです。

【視点と心構えについて】

人生を生きる方法は2つあります。
奇跡など何もないように生きるか、
全てが奇跡のように生きるかです。

権威を盲信する事は、真実の最大の敵です。

私は、楽観主義者で愚か者である方が、
悲観主義者で正しいよりも良いです。

私が特別に賢いわけではありません。
ただ、質問(問い)に対して長く、粘り強く付き合うだけです。

問題を解決するには、
それを作り出した時と同じ考え方では解決できません。

天才は1%の才能と、99%の努力(挑戦・行動)です。

所有物、外的な成功、宣伝、贅沢。
これらは、私には常に軽蔑すべきものでした。

私は、シンプルで控えめな生活が、
心身ともに最良であると信じています。

弱い人は復讐し、強い人は許し、賢い人は無視します。

世界を支配する三つの大きな力は、
愚かさ、恐怖、そして貪欲です。

【創造性と想像力について】

知性が楽しむこと、それが想像性です。

想像力は知識よりも重要です。
知識には限界がありますが、
想像力は世界を包み込みます。

私は、自分の想像力を自由に描くことができる
アーティストで充分です。

空想の贈り物は、ポジティブな知識を吸収する才能よりも、
私にとって重要です。

新しい質問、新しい可能性を提起し、
古い問題を新しい角度から見るのが、
創造的な想像力を必要とし、
科学の真の進歩を示します

教師の最高の技術は、
創造的な表現と知識に、喜びを目覚めさせることです。

本当に価値あるものは直感です。

真の芸術は、
創造的なアーティストの中にある
抵抗しがたい衝動によって特徴付けられます。

創造性とは、他人が見るものを見て、
誰も考えたことのないことを考えることです。

静かな生活の単調さと孤独さが、創造的な心を刺激します。

【恋愛と性について】

女性は男性が変わることを期待して結婚し、
男性は女性が変わらないことを期待して結婚します。
だからお互いに必然的に失望します。

恋に落ちる事は、
人々がする最も愚かなことではありませんが、
それは重力のせいではありません。

科学や物理の観点から初恋のような
重要な生物学的現象をどうやって説明するのでしょうか？

綺麗な女の子にキスしながら、安全に運転できる男は、
そのキスに十分な注意を払っていないだけです。

愛は義務よりも優れた教師です。

結婚は文明化された奴隷制度に過ぎません。

私たちが持つことができる最も美しい経験は神秘です。
それは、真の芸術と真の科学の揺籃に立つ基本的な感情です。

YouTube 高価値な男へ
—【81 億の人生を変える】70 代で人生後悔しないためのアインシュタインの名言・格言"より—

本 講

ここから、次元が変わります。

第 8 講「新しい価値を創造する「システム思考」の確立

— 竹内日祥上人ご講演の筆耕より一部抜粋 — ②

《 第 5 期第 2 講 レジメ 52 頁～64 頁迄を再記載 》

■夫婦の関係性について

例えば、ご夫婦でいえば、ご主人と奥さんとの中で、ご主人がご自分のことを自己というふうに理解していかなければならないとしたら、受け止めるとしたら、自己というのは自分、つまり、ご主人と一番身近な人間は、奥さんと子供です。まず奥さんと自分との関係性があつて自分がここに存在しています。妻もここに存在しているのです。このような関係性が夫婦という両者の人格の存在を可能にしています。

その時に、二人が結婚したことにより成立する関係性をここで関係性といっているのではありません。ここが大事なところなのです。

結婚する前、自分の身近な周りには別の人がいました。実家で親と一緒に暮らしていたとすると、その当時は自分と親との間に、親子という関係性の中にあつたのです。

そして、結婚して妻と一緒に同居するようになり、結婚生活が始まって、自分の対象が親ではなく奥さん(妻)にかわって、ご夫妻の関係性をそこで保証したことになります。実は、ご主人と奥さんが存在している。その両者の間に関係性があります。

普通は結婚して関係性が成立したと思うでしょう。だって結婚するまでは他人同士だったのだから。

この関係性が大事か、自分自身が大事かという、関係性の方が大事だと考えます。
それを自己というのです。

いや、私は関係性なんか関係ないよ。私は私自身が大事なのです。」それは自我なのです。つまり、ご夫婦の場合だったら、ご主人の場合で言うと、自分自身を自己として認識したら、その目の前にいる奥さんとの関係性が非常に重要なのです。

夫である自分と妻である奥さんが結婚して、初めてできた関係ではありません。夫婦という関係はそれ以前にできているのです。どちらが先かという問題なのです。結婚するまで夫

はいません。独身だったある男性と独身だったある女性が結婚することによって、それぞれが夫婦という関係性で結ばれて、それで夫には夫の立場があり、妻には妻の立場がそこで揃います。

関係性が先か、それとも夫の立場に落ちついてからの関係性なのか。妻は妻の立場に落ちついてからの関係性なのか。どちらが優先的か、どちらが先かと考えた時、皆さん間違わないでください。自分たちが優先的に結婚したから夫婦の絆になったのだ、夫婦の関係性の世界ができあがったのだと考えたいのですが、どちらかといえばそのイメージに近い解釈をする方が一般的傾向としては多いといえます。それは自我の教育しか受けていないからなのです。

自己の教育ではこのように考えます。夫婦の関係性が先にあって、そのパターンの中に入ったのは後だということです。そこで、妻にはこのような気遣い、このような心配り、妻は夫にこのような気遣い、このような心配りをしなければいけないという小さな条件項目がこのあといっぱい出てきますが、その前提として、この夫婦が「夫婦という立場」を「共有した時」に、お互いに夫婦だといえます。

私は妻という立場で夫婦、夫は夫という立場で夫婦。しかし夫婦の立場が成立したことが先なのか、関係性が先なのかとなった時に、実は関係性が先だといえます。そのように考える考え方が昔からあるのです。その関係性のルールも法則もあります。それを私たち夫婦がお互いに学びあうのです。

例えば、夫が「朝起きて、挨拶するのはそっちから挨拶しろ。」と、そんなことは言うなという教えがあります。そうではなくて「おはようございます。どうだ、体調はどうか。今日はご機嫌かね。」夫がそのように訊くと、まだ若い結婚してまだ間がないご夫婦である奥さんが、「もちろん、私は元気でピチピチしているよ。あなたはどうか？あなたも同じですか。」と奥さんは訊きます。

「もちろん、一緒だ。」「若い者同士って幸せだな。心配することがなくて。健康に恵まれるってことは幸せだね。」そういうことなのです。「私はあなたと結婚して、自分の健康がこんなに大事だって初めて気が付いたよ。というのはあなたを悲しませたくないからだ。私は元気でいなければいけない。朝起きるたびに、それを私はいつも思っているのだ。」

すると奥さんは喜びます。それだけで女性は言葉が出てこなくなるのです。こんな素晴らしいことを言ってくれる人なんていません。でもこれは習ったとおりに言ってもらわなければなりません。自己人格を教育で勉強したら、優しい言葉をかけるよりもこのような言葉を

かけなさい。すると、もっと深いものとして相手に伝わっていくから、心に通じるからです。

だから、**経営人間学講座**に、離婚しそうな夫婦がお聴きに来られたら離婚が止まります。経験的にこれはわかっています。まあ、これは冗談です(笑)。

つまり、「**本当に優しい言葉**」というのはどういう意味か、思想的に検証しなければならぬ言葉なのです。そのようなことを小学校の時に教えるべきです。小学校でちょっと難しいなら中学校なのです。中学生くらいになると、このような知識、このような性格のテーマについてもものすごく敏感になります。それが自己人格の学習のスタートなのです。

■「日本」と「ヨーロッパ」の「価値観教育」の違いについて

昔、日本では戦前までは「旧制中学」と「旧制高校」でこれを教えたのです。価値観教育を戦前まではやっていたのです。戦後に全くこれがなくなってしまいました。マッカーサーの方針が悪かったという人がいますが、そうではありません。マッカーサーの方針を馬鹿ほど素直に受け入れた日本人が馬鹿だったのです。

とにかく、あの当時は泣く子も黙る連合軍だから仕方がないのかもしれませんが、戦後あまりにも自己人格の教育を受けなくなった日本の子供達はそれ以来かわいそうです。

その当時の子供たちは今 60 才台です。70 才近い年齢なのです。私は 65 才ですが、私より 5 つ位上までの先輩の年代には、自己の意味をわかっている人はほとんどいません。それまでの人生で聴けなかったのです。日本人は聴く機会をなくしてしまっているのです。

ヨーロッパの人たちは、その後大人になってから聴く機会がたくさん与えられます。どこでそんなことを教わるかという教会です。キリスト教の教会へ高校生まで行かなかった子どもはまずいません。だから、ドイツの高校生は日本の高校生と何処が違うかというと、精神年齢が違うのです。向こうは優しいし、絶対いじめなんかありません。

日本では、いじめはこれからどんどん深刻になるでしょう。日本のいじめは止まりません、人間学という学問を充実しない限り絶対に止まらないのです。「経営人間学」という言葉は、人間を哲学的に考察するという意味です。

これが学校教育の中にきちんと受け容れられれば一変にピタッと止まります。すごいスピードでぱっと止まります。それぐらい大事なことを教育の現場の人達は勉強していないのです。

さて、この**開放系**の所ですがもう一遍読みます。読むだけにします。**自己は、自己自身と、**

自己の環境とを区別する境界を決定することによって自己を創造することができる。自己自身をつくり出すことが出来る。自己が環境との間につくる境界、境界領域は自己と環境を区別すると同時に、自己と環境を相互に統合させる境界ともなる。境界が自己と環境の同一性と再生との矛盾を統合している。その意味で、自己は、境界を通して、環境に対して開かれていると共に閉じられており、閉じていると共に開かれている。

この閉じられている状態から開かれている状態になる時を**開放系**というのです。この開放系のことは後でまた説明が出てきます。

-非平衡-

次に**非平衡**、非平衡というのは、常に平衡状態ではない状態、偏った状態、非平衡状態、これのイメージを少しご紹介します。

複雑系の基本的な言葉の意味です。やかんに水を入れて、下から火をかけると、熱の出入はより盛んになり、やかんの上層の水は重く、下層の水は軽くなる。上層の水は冷たくて下層の水が熱してきますから、軽くなって上に上がって循環が起きるのです。

このため上層の水は下へ行こうとし、反対に下層の冷たい水は上へ行こうとする。「対流」である。この「対流」は無秩序に起こるのではなく、やかんの中で、水が上に向かう帯と下へ向かう帯状の形ができる。水の中で、流れの構造が出来るということです。それを「対流」と言います。

つまり、火にかける以前の閉じた平衡状態のときは、水の粒子は無秩序に存在していたけど、火にかけることで非平衡の状態に置かれて「対流」という秩序が生まれたことになる。この現象を自己組織性と言います。これが自己組織性の最もシンプルな非平衡状況です。

非平衡状況とはこのような熱力学の構造の中で生まれてきた概念になります。

平衡状態から非平衡状態になるとひとつひとつの水の分子が全体を見るようになるそうです。

ひとつひとつの水の分子が下から火を燃やすと、水の分子が安定しているのが、段々下から火を燃やし続けるから熱くなり沸騰しますと、沸騰状態を非平衡状態といいます。その時、水の分子がそれまでは水のままの状態で安定した最も固定した状態の時は、水の分子は隣の分子を見ることはあっても全体を見ようとはしません。

非平衡状態になって熱が最高に沸騰してきますと、全ての水分子はひとつの分子の目線がすべての世界、やかんの全部に目を配りだすのです。そして何処へ流れようとしているか、それに遅れまい、遅れてはいけないと、そこに喰らいつくようにしてそこへ行きます。それが「対流」を生むのです。

丁度、今、仮にベルが鳴ったとしましょう。そのベルは火災が起きたという合図です。すると管理人の方がドアをけ破って入ってきて「火災が起きました。直ぐに逃げてください。非常口はあちらとこちらです。」と仮に言ったとしましょう。

そうするとあちらとこちらへ全員でワーッと倒れる人も出てくる。押し倒してでも自分は先に行かなければいけないとなります。

これは、所謂、沸騰状態、つまり非平衡状態が最高状況に達した時、全ての水の分子、全体がどうなっているのだ、逃げ場所は安全な所はそれを全体の中でこれはこう、このことについてはこれが課題、このことについてはこれが答え、このような場合はこのような対策という、ひとつひとつが最高の知的対策を立てることになるのです。

水の分子は知的に行動します。全体を押さえた視点で、人間がものを考えている状態と同じ状況が起きるのです。

このようにして、生命体になずらえて説明すると、機能の展開の仕方が理解しやすくなります。そのような状況は今までの科学とは違います。今までの科学は客観的に分析するだけでした。それも数値による分析だけです。こちらは違います。状況による分析です。私はこの状況分析が大事だと考えています。

もし、会社が倒産しかけたら、この状況分析から倒産しなくてもよい新しい安定した方向性を急遽模索すればよいのです。その時全社員がその会議に必要になります。この状態は説明すると、こことここに、このような異変が起きているのだ。そのことが連鎖反応によってこのような別のところに飛び火して、ここが今壊滅状態だ。そして解決する方法のヒントは、こことここに何か新たなものを投入することでしか、これを収束させることはできない。

「誰かいないか。この4つのカテゴリーの中のテーマを取り上げたいのだが、」その時、「それは私が担当ですからよくわかります。そこのバルブを絞めるには難しいことが一つある。このことに気を付けないといけません。このことの安全性を確かめてからでないと、

そのバルブは開けたり閉めたりはできない。余計に危険な状況になります。」

次に別の人は「それはわかったけれど今度はこのことについて言いたい。」「この問題については…」と全社内ですべての人間があらゆる問題を解決に導くための、一言、一言のワンポイントのアドバイスができる人は結構たくさんいるのです。

その人たちの注意事項をことごとく聴き込んでデータを解析して「よしわかったじゃあ、ここから手を付けよう。次にこちらへ行って真正面のこれを突破しましょう。」このような戦略会議を急遽構成して、問題解決にあたっていく。この状況打開による人間の問題そのもののコンセプトの捉え方、見つめ方がテーマになります。企業の状況判断と、企業の緊急の事態、急に対策を立てないといけない時の注意する方法なのです。そのような場数を踏むということが社員にとって大変大事な経験になります。非平衡とはそういうことです。

-触媒性-

もうひとつ、**触媒性**という言葉があります。

自己触媒系というシステムは、**地球上の生命も集合的自己触媒系であり、自律的な反応ネットワークで成り立っています**。組織全体に行き届き機能している反応するネットワークで成立しています。**生命は、おそらく、核酸やタンパク質の集合的自己触媒作用によって誕生することはわかっています**。そのように考える方が、多様なものを生み出しながら自己自身を再生産する能力をもった**生命の誕生がよく理解できる**からです。

触媒とは、1つの反応が新しい反応を引き出すものです。触媒的な作用がよく機能することで、問題解決の為の新しいステージの展開が生まれてくる。組織の中の問題をどこにどのような問題が含まれているかを最初に特定したうえで、自己組織性の原理を前提にした問題解決の思案を皆でだしていこうという問題解決の方法なのです。問題解決に進んでいくための手順段取りです。

このまま放置していると自滅しかねない状況の会社が非常に多い。それを抜本的なレベルから「制度」と「仕組み」と「構造」と、人間が「主体的」に「人間同士の関係性」の「構造の力学」を応用して、より気づいた者同士が情報交換によって、もっと価値ある問題解決の為のネットワークに機能が俊敏に反応できる。そのような構造を進化系として創っていく。

そのことによって問題の所在と内容が明らかになります。あちこちに問題の火の手が上るという状況があり、それは色々な問題はつながりがあるということです。同じ日、同じ時

間帯に発生する問題というのは、同時に発生します。これを複雑系と言います。これまでの単純な合理主義だけ、数値の分析だけで解決できない背景というか、その裏面と言いますか、裏側で非常にものすごく複雑な状況が入り組んでいる。

その結果、このような今までの常識では、その問題の所在が特定できない。問題の背景がなかなか読み切れない。問題の本質に何があるのかが、なかなか読み解きが難しい状況が色々な会社で今起きている。そのような複雑な背景を背負った問題を一つひとつ解決していく。

—— 中 略 ——

それから会社に対して皆が感謝するようになるのです。

こんな勉強ができるのは会社があるお陰だ。

こんなに上手く仕事ができるようになったのも結局社長がいて、会社があって俺たちのことを馬鹿な奴だと思っていても諦めないで育ててくれた社長のお陰だともものすごく社長に感謝するのです。

社長に感謝する気持ちが求心力です。

社長の為にやっているのです。

そういう気持ちが社員の気持ちの何処かにあります。

ですから難しいことでも助け合ってできるのです。社員は本気になれば何でもできます。

社員というのは偉いのです。

見ていたら社長が感心するくらいです。馬鹿で無責任なことしか言わなかった奴が、こんなに嬉々として仕事に取り組んでいる様子を見て、皆が幸せなのです。

社長はまだ頭が固いから昔のままなのです。

意外にそういう場合が多いのです。

それくらいが少し困ったことになります。

社員の方がシャープになります。

自分のプライドを自分で守ろうなどという気持ちがなくなるから本人の意識が非常にシンプルになるのです。

若い人から叱られても腹が立たない。最もなことを言われたといって舌を出して笑っているのです。これがいい雰囲気なのです。

経営者の方もそのチームで仕事をする時に経営者がそこに出席しなければいけないことがあります、その時は、経営者という肩書きを取ってもらいます。

肩書きでものを言うというのはこういうようになってきたら一番ダメな人ということになるのです。

経営者が経営者の肩書きを取ったら皆と同じ立場になります。

そして皆の意見を素直によく聞くのです。

そして感心したところは感心するのです。「偉い、そこは立派だな。こういうようにお前が育ってくれるとは」とその時に社長の肩書きなどはない方が社長に感謝するのです。

ここまで辛抱してくれたのは社長が辛抱してくれたからここまで引っ張ってくれたおかげですから。

思想的価値観による抜本革新というのはいいものです。

①自己組織性の原理

一般的に大切とされているものをまとめます。

(1) 自分らしさの個性に基く価値を確信できる自己の「主体性」とは何か。

その欠如、喪失こそが問題を引き起こす自分自身に他ならない。

自己の主体性に恵まれるには、何が出来ればよいのか。

「自分らしい個性に基づく価値」を確信できるのが自己です。

個性も自己の主体性です。

私たちは「自分らしさの個性に基づく価値」を知る必要があります。自己の主體的な価値の中で一番大事な価値は個性です。それは自分らしさの個性に基づく価値であり、このことについて自分の答えが出せないといけないのです。

(2) 自分にしか出来ないことが、自前だけで出来る為には何が、どのような条件が揃った時なのか。これは個として自己と組織の全体が相互互換の関係で貫かれている事実に気付いた時である。

ここで大事ななのは、個、自己、組織、全体という言葉。そして相互互換関係です。

自己組織性を理解する上で、この言葉についてよくわかっている必要があります。

(3) 自己の内部世界が、他人の世界と無関係ではあり得ないことが判った時から、組織に対し真の自己の主体性が確立する。

我々は、人間と人間を結びつけている関係性の恩恵を受けています。

ご夫婦が上手くいっているのは夫婦の関係という関係性の領域が非常にうまく保存されているからです。

ご夫婦のそれぞれそれぞれの気持ちの中に、妻は子供たちの手前、夫をお父さんといいます。それは妻が自分の立場を子供の立場に置いて子供たちも共感してお母さんと、お父さんの話にきちんと乗ってくるようにしているのです。妻である私があなたに意見がありますとは言わないで、「お父さん、お父さん、ちょっと私の話を聞いてよ。」と生活的な何気ない話題があるとき、妻はお父さんと呼びかけます。このとき何の抵抗もないのです。阻害する要素が全くありません。何故でしょうか。この時、お父さんが、お母さんである私を大事に思ってくれる愛情？ではなく関係性なのです。これが大事なのです。

私が上司である部長とこんなに心を許せるのは、私と部長の関係性が最高だからです。「私のために部長は最高の関係性をつくってくれています。私が何を言っても部長はOKなのです。

部長に『ちょっと話を聞いてください。』と言えば、すぐに聞く体制になっている。『部長、今日は特別な話ですから特別な気持ちで聞いてください。』『わかった、特別ね、オッケー。』『何がオッケーなのですか？』『お前が今、特別な気持ちで聞けと言ったでしょ。だから俺は特別な気持ちで聞いている。オッケー、どうぞ（話してください）』

関係性というのはこういうもののなのです。

一人ひとりの人間の存在には実体がありません。在るのは関係性だけなのです。

愛情を掛け合い、努力することが離婚にならないかというそうではありません。

離婚の前提で夫婦が話し合っていることになります。愛とか、愛情とか、私のあなたに対する愛情、あなたが私にくれる愛情がお互いのもので、それぞれが愛情を持っているのであれば夫婦が相手の心を大事にしたいという気持ちがあったとして、それを愛情だとか優しさだとかという言葉に置き換えたら、それらは自我を想定したことになります。

自我を想定して成り立っている空間でしかない状態で、そこに変化がないのです。

これは必ず離婚になります。関係性がいかに大事かということがわかっていない夫婦であることに気が付かない夫婦はどんなに愛情があっても離婚になるのです。ということが関係性の意味なのです。

よって関係性という言葉をどのように理解して二人の関係性が最高の価値を生む為に何が必要かということを正しく思想的に認識しておかなければいけないということです。

今説明したところは（３）自己の内部世界が、他人の世界と無関係であり得ないことが判った時から、組織に対し真の自己の主体性が確立する。

ここに書かれていることは何気ないことが書かれているように見えますが、普通の人はこう考えていません。ということが書いてあるのです。

②自己組織性の原理

経済の話題です。

市場経済なども自己組織系であります。市場経済の担い手である多数の主体は、必ずしも、世界に関する全情報に基いて行動する合理的主体でも、中央にコントロールされたロボットでもない。それらは、むしろ、互いの利益を目指して取引し、相互作用しているだけなのだが、そこから、自然に市場経済の秩序が生まれてくる。しかも、それは動的秩序であって、均衡するとは限らない。

近代経済学はこれが均衡すると考えています。これは関係性をほとんど重要視していないのです。それぞれの個体があるだけだと思っています。個体のかけ引き、個体の引き合い、個体と個体の激突、個体と個体の利害の不一致の問題に対してどう対応するか。

個体と個体の問題として近代経済は考えてきただけなのです。

この両者の関係性の構造をどうするべきか、ということについて近代経済学は全く触れていないのです。日本の経済学者はそれが問題だということに気が付いても、そこに目を付けようとはしないのです。このことを一番悩んでいるのはアメリカの経済学学会の会長です。何故こいつらは頭がこんなに悪いのだろうか。何故自分の利権ばかりそんなに考えなければいけないのか。自分の立場に都合よく解釈する経済学ではないかと思っています。学者なのだからその経済でお金を儲けるのではないのだから、そこにこだわらなくてもいいと思うのですが、こだわるのです。

それはおそらく人脈の問題なのではないかと思います。日本はとくにそうですが、学問の世界というのは師匠を裏切ると一生干されるのです。よって間違っていることでも師匠が「こうだ。」と言えば「はいそうです」と言わなければなりません。

これは職人の世界と同じです。日本の大学は「私は先生から『違うものは違うと言いなさい。』と言われたから私は言います。先生それは違うと思いますが。」と言ったら、即荷物をまとめて大学を出ていかなければいけないことになりかねません。

市場経済をはじめ、一般に社会は、相互に依存した多くの主体の相互作用から、その総和以上の秩序を自発的に生み出す自己組織系である。

総和以上の価値を生み出してこそ人類の未来に貢献できるのであって、今の経済学は人類の未来に貢献できるようにはとともなっていない。

複雑系経済学を日本では進化系経済学と言います。学会では優秀な学者が集まっていますが複雑系とは言わないのです。進化経済学会。日本ではそのように名前を変えておかなければ潰されるのでしょう。

③自己組織性の原理

自己組織性とは、宇宙の中に含まれるあらゆる存在が、その独自の個性を維持し、発揮する能力を持つ上で必要な原理である。宇宙が同質的でランダムな無秩序から自己の秩序と個性をつくり出したように、自然におけるどのような個体も、自己と他者を区別できる固有の独自性をつくり出すのである。

企業もまたその例外ではない。この宇宙と、宇宙を構成する万物は、共に有機的生命システムの機能を有し、本質的に外部環境からの統制・コントロールを拒否する循環システムにより成立している。すべての企業は、より大きな自然システムや、社会システムの内部に埋めこまれており、それらのシステムと相互に深く関係するものとして捉えなくてはならない。なぜなら企業と雖も、大宇宙システムに包み込まれたサブシステムの一つであるからです。

[2]有機体的システムがもたらす相互共存性の原理

■相互共存の原理とは

すべての万物は、相互に密接に結び合い支え合っている。人間も万物も例外なく、関係性の条件の中でその存在が保証されている。この考え方が世界中の人に受け容れられるきっかけは何処にあったと思いますか。それは仏教思想です。この仏教思想と同じ思想がアリストテレスにもあったのです。アリストテレスと仏教はつながっています。お釈迦様とアリストテレスは概ね同じ時代なのです。

われわれの宇宙は、今、この一瞬の時にも、膨張しつつあり、その中で諸天体は、互いに

引き合ったり、衝突、合体し、相互作用を繰り返し、生き物のように、絶えず新しい形態の星や銀河を形成してきた。無限の相互作用からおのずと自己自身を形成していく中で、宇宙のガスや塵は、超銀河集団や銀河集団、銀河や星団、星や惑星を形成しているのである。

宇宙が、常に分化し、複雑化し、多様化し、階層化しながら、多くの構造を次々と創発を促し、動的に進化していくのは、宇宙が、それを構成する諸々の力や物質間の相互作用から自己自身を形成していく複雑系だからである。

物質世界でも、粒子と粒子は、互いに衝突を繰り返し、他の粒子を交換したりして、不断に相互作用し、休むことなく変化している。この粒子と粒子の相互関係性と相互作用性からすべての物質の構造は形成されてくる。

素粒子、原子核、原子、分子、結晶、すべての要素間相互作用から自己自身を形成する複合体である。物質そのものがそれぞれ単独に存在するものでなく、周囲との相互作用によってのみ理解しうるものであり、いつも、まわりと不可分に結びついている。

物質世界は活動であり、過程であり、あらゆる事象が相互に関連しあっている動的世界である。一つの事象は、他のすべての事象と関連しあっている。そのような相互の関係性からおのずと自己自身を形成していくのが、物質そのものの本性である。

こういう世界を創造しますと、関係性という言葉と普遍的な存在価値を認めないわけにはいきません。新しいご夫婦の在り方で新しい家庭が生まれ、そこに赤ちゃんが生まれて、その子供が大人になる過程でご夫婦は年を取り、どのような絆で結ばれる成果が、そこで生まれてくるかなのです。科学は私たちに関係性の大事さを教えてくれることになります。

関係性による出逢いが人間の可能性を変えていくのです。互いに出逢った相手により変えられ、未来に成長していくきっかけを与えてくれます。出逢う人を通してしか、私達は自分を変える方法は知らない訳です。

よって出逢いを喜びます。新しい出逢いに感謝して、お互いが素晴らしい成長のきっかけを出逢った相手から頂くのです。お互いが学び取れるように出逢いの価値に感謝し、良い出逢いを約束します。むしろ悪い出逢いでもいい出逢いに変えてしまうような出逢い方ができたら、ビジネスの世界ではおそらく大成功を勝ち取られること間違いのないわけです。

①相互共存の原理

(1) 人間は、人と人との間に生じる関係性を通して、社会や世間や組織に貢献する。関係性の内容にしか価値創造の「場」はあり得ないのである。

関係性の内容とは、世間や社会や組織などのような場を通さない限り具体的に形を成してきません。私たちはいろいろな関係性を通して、自分の新たな可能性の扉を開いていこうとしているのです。

色々な組織、色々な企業、色々な人がどういう生活、どういう生き方、どういう人生に対する考え方を持っているのかということに興味を持ち、互いに積極的にもっとお互いを知り尽くせるように、ありとあらゆることに対してお役にたてるようにという意味で私たちは無条件のサービスを第一に考えて思いを新たにする必要があります。

(2) 関係性の極致を極める。それが価値創造の為の唯一の方法であり、それよりほかに手段はない。人間の主体性は、そこに確立する。

ビジネスについて考える材料は、いろいろな機会や出逢いを通じてあります。未来の可能性についてビジネスを通して成果を実現したり、夢を達成したりすることで夢をビジネスの世界に持ち込みたいのです。夢を持ち込むことで、未来に向けて明るい気持ちになって、何を目的にしてビジネスをするかを考えます。

目的という言葉は非常に大事な言葉です。ビジネスを成功させるために、どのような目的意識を持って考えて生きてきたのかという自分の過去の概歴を多くの人に聞いてもらい、出逢った相手の話もよく聞き、相手から学ばせて頂かなければなりません。色々なことを教えていただき、こちらも自分たちの思いを聞いていただいて、絆がもっと深くなるように、将来性や夢や未来があるヴィジョンが描ける、目的について語り合える友達ができるということは実に楽しいことです。

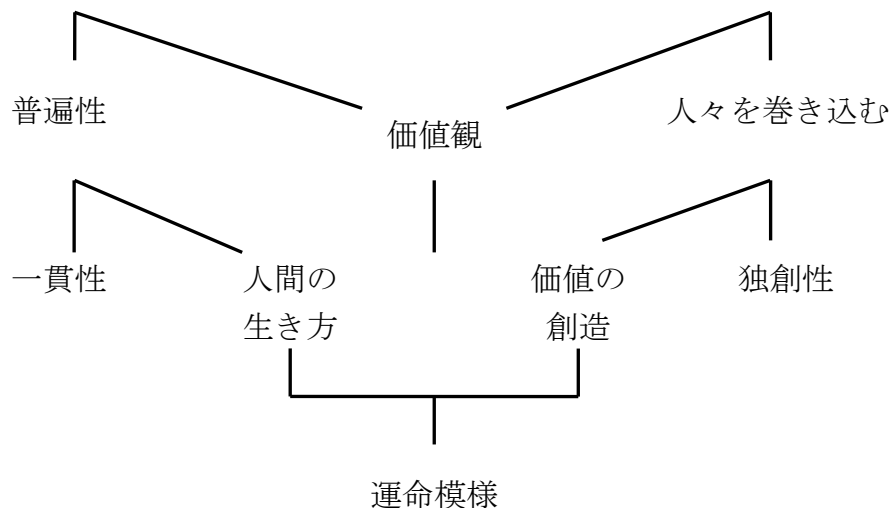
友がいて、目的を共有し、生き方についてお互いが学びあいます。「あなたの話は夢があって、きれいな夢でものすごく楽しいけれども現実性が少し欠けるのではないか」などと言われてがっかりする人もあるのです。現実を抱え込んだ上で、豊かな夢を膨らませるためには必要な学習があります。その時の学習内容は、これまでの学習とは違う学習のイメージが期待されているのです。

人を育てるという仕事に夢を託す人が多くなっています。例えば最近の女性は、自分の一生をどのように過ごすことで世の中に少しでも貢献出来るのか？と本気で悩む賢い、優秀な女性が増えているのです。そういう女性の話を聴きたいなと思います。

そのような話を聴く案内が来たら人が集まるのです。様々な世界で生きてきた人の価値観を私達に教えてくれるような機会が、非常に多くなってきています。お互いがお互いとの出逢いを通して学びあうというところに話が結びついていくのです。

しかもその先に、ビジネスが待ち構えています。ビジネスとして取り組めたら、もっと素晴らしい夢が、単なる夢だけではなくて現実化し、世の中に提案ができる最高に恵まれた素晴らしい夢の共有ができることは人生で非常に大事なのです。

■中東でボランティア活動をしている女性の話



私は昔、懇意にしていた会社の社長の甥御さんで東大を出て帝人勤めた後に、この会社に入社して来られたという方とご縁がありました。この人は、学歴が高くて、少しおすましさんで、当時全然面白くない人だったのです。先日、久しぶりに会って、中東へ赴任している娘さんの話になりました。NPO か何かで海外の将来の為に、色々なプロジェクトをつかって現地へ出て行くという、実際はボランティアなのです。

凄く優秀な娘さんらしくて、そういう彼女の話をお聴きしていて、お父さんが教えられるのだといいます。「自分たちは何も考えずに生きてきたけれども今の若い人たちは違うと思った」と言うのです。お話を聴いていたら、私も会ってみたいくなりました。

中東というところは危険なところらしいのですが、現実には危険かどうかはわからないのです。そのような場所へ行かれて恐らく4、5年くらいだろうと思います。時々帰ってくるらしいのですが、その度に本当に頼もしくなって帰ってくるのだそうです。「やることはやっているのだろうという印象だ」と、お父さんが言うのですから本当にそうだと思います。

男性は敵と味方が争うというイメージはすぐ理解できるのですが、ボランティアは傾向として、普通イメージできないのです。男性の中にも色々なタイプの違いがありますからそういうことが夢として追いかけられる人も当然いると思います。しかし、女性がボランティアで中東へ行くというのは勇気がいります。自分の人生を懸け、それなりに心の整理をつけている大人でないと行けないのです。

つまり、大事な決断ができるということは大人なのであります。恐らく、私の聴いたイメージですと人間としてこの人は魅力のある人です。特別なことは何も聴いていませんが、娘さんのことですからいろいろと聴いていたら教えられると言っていました。

先日「お上人、人間学講座はまだしておられるのですね」と突然、電話がかかってきてお話ししたら、その娘さんが私達の仕事を手伝いたいという連絡だったのです。

恵まれた人と恵まれていない人との格差があるから恵まれて居ない人の為に尽くしたいという社会のニーズがあります。例えば、国連の高等弁務官をしていたことで有名な緒方さんのような女性を見て、刺激を受ける女性もいるのです。

複雑系が描く宇宙観とは、今までの宇宙観とは違う宇宙観であります。人が人材として育つということと宇宙の進化は関係があるという見方なのです。人間ひとり一人が企業にとって育てられるかどうかというテーマが今、大事なテーマなのですが、宇宙の進化と同じ原理によって人は成長していきます。進化していく仕組みは、宇宙が進化して成長していく過程と人間が育つ過程は同じだという捉え方をしようとしているのです。

価値観という言葉は、私共はもの凄く重要なテーマだと思っています。価値観とは、人間の生き方を語る重要な条件です。人間の生き方はその人の価値観によって支えられています。人間に価値観がなかったら一貫した生き方は出来ないのです。

この娘さんの話をお父さんから聴いた時、この女性の歳は恐らくまだ 30 代前半だと思います。この人の生き方を聴く限り、自分で一貫性をもつてもの凄く真面目にものを考えて、自分の人生を選んでいるのだと思うのです。この人間の生き方が価値観なのであります。

価値観は、価値の創造の為に絶対に必要なものです。価値をどうつくっていくのか、価値をどう生み出すのか、つまり、価値の創造性であります。これが価値観によってのみ可能なのです。

一貫性という点において切り口を考えますと、**価値というのは独創性**です。独創的なもの

でなければ価値ではないのです。人間にとって価値観が絶対に必要な理由だろうと考えます。価値観によって人間の運命は決まり、運命模様が鮮明になってくるのです。

人間は価値観を通して、色々なものの考え方のバリエーションを広げていきます。子供の頃から学生時代を通して、社会人になって、成長して中年になり、やがて中年からその先の未来に、高齢者に向かって生きていくその運命模様が価値観の内容通りの人生になっているのです。

つまり、価値観の内容が普遍性を持っているかどうかです。ある限られた中でしか通用しない不便利なものでは困るのです。価値観の価値は普遍性にあります。それから、多くの人々を巻き込む力がないと価値観ではありません。

価値観の勉強を始めて、改めて価値観は人生に大事だと気付いた時から自己人格が生まれるのです。

自己人格はこの価値観から生まれます。自分の価値観について真面目に向き合い、価値観を信じている自己と向き合い、自己の価値観と向き合った自己が、自分とどう向き合うかという価値観を前提にして自分が自分自身と語り合う世界が開けてくるのです。

そして、自己と語り合う世界まで人間が気付き、成長の足跡を確かめられるようになると、価値観を巡る話し合いが非常にスムーズに出来る人と、その価値観の話題が共有出来にくい人へと綺麗に分かれます。

自己概念と向き合っている人というのは、自分自身のことを大切にする生き方をしているのです。今ご紹介した若い女性は危険な所に行き、ある種の危険性が伴うお仕事をされているのだと思います。それは価値を生む条件は全て揃っているという意味で、彼女の選んだ選択は知的な裏付けを伴う選択肢に基づいているのです。明らかに自己人格との出逢いを此处で実現しています。自己人格との遭遇を経たひとりの自立した大人なのです。これが教養です。インテリというのはその経験がないとインテリではありません。

つまり自己を知るということがインテリなのです。

知的な気付きの中で自己についての深い理解と、自己に対する深い共感性と自己に対する深い見識であります。

見識を持ち自己についてより詳しく語る言葉が出てくる人かどうかです。

(1) 人間は、人と人との間に生じる関係性を通して、社会や世間や組織に貢献する。関係性の内容にしか価値創造の「場」はあり得ない。

(2) 関係性の極地を極める。それが価値創造の為の唯一の方法であり、それよりほかに手段はない。人間の主体性は、そこに確立する。

関係性のテーマを選んだ時から自分と別な人格を持った他人との関係をどんどん広げていきます。そして、その広がっていく原点は自分が自己と向き合った上で自己を表に引き出し、自己と他人との関係性が広がり、且つ深められていく生き方が人間としての主体性なのです。

価値創造の為の生き方は、そういう生き方しか他に方法はありません。

価値観の勉強をして頂いて、良いお友達を創りそして、良いお友達を良いお友達に紹介出来る素晴らしい関係性の世界が広がっていくのです。

我々がお互いに自分だけの世界に留まれば、自己人格に出会ったことにはなりません。他人と自分との関係性をより好ましいものに仕掛けてつくり直すということが私達には期待されているテーマになっているのです。

企業の中で心の通う関係性があまり出来ていないケースが多くあります。会社も、大変厳しい中でも前向きに仕事と取り組んでいるのです。そしてやはりそこに価値観があって、我々は高い価値観を共有して仕事に取り組んでいます。仕事を通して色んな人に出逢った時に、皆から評価してもらえるとという自信は非常に大事なことです。

ですから、組織丸ごと価値観を大事にする人間集団に変えていく、価値を創造する人間になりたいと思う価値観の人を増やしていくのです。それは単純な言葉ですが、経営者がそんなことを考えて社員に訴えるようになるということは、成長したいという社員の気持ちに全面的に協力していくという意味なのです。

経営者が企業を通して価値観の勉強をしたい、価値ある生き方をするためにどんな勉強をすれば、意見が言えるようになるか自分がまずコミット出来るかが大事なのです。

良いテーマについて会議をすれば「私は何も言えない」ではまずいのであります。

貴方は何か言いたいことはあるのか、ないのかということから始まります。

価値観や価値あるものとは何かということについて、色んな本を読んだり人の話を聴いたり、積極的にアプローチしていかなければいけないのです。勉強しようという意欲をまず引き出していかなければいけないといったようなことになっていくのだろーと思います。

昔から深くものを考えて生きている人と、あまりそういう問題意識を持たずに生きている人がいるということなのです。

私は山本周五郎の「日本婦道記」という本を結婚する年頃の娘さんや、花嫁にプレゼントしています。「日本婦道記」というのは短編集を集めた小説で山本周五郎の代表作です。これは現代のお嫁さんにも読んで欲しいけれど、ご主人にも読ませたい本であります。奥さんはこんな小さな家庭の中でこんなことを期待しているのだから、結婚した限りはその期待から絶対に夢を奪ってしまうようなことはあってはいけないのです。

そういうことを男性はもっと考えられるようにならなければいけません。しかし、そういう文化的な夢や期待、希望みたいなものはわからない人が非常に多いようです。大学で人文系の勉強を選択すると就職先がないといわれるくらいであります。しかし結婚で上手くいく為にはそういうことの配慮や、気遣いがないと上手くいかないだろうと思うのです。

その小説を私は学生の頃に読んで、忙しいものですから時間が出来たらまた読もうと思いつつ、そのままずっと一度も読んでいませんでした。それでこの間プレゼントした後ふつと何気なく電車の中で少し読んでみようかと思って読めば、やはり良いのです。

人間の生き様は、自分の生き方について真面目に考え、どんな気持ちで生きていけば後悔をしなくて済むかとか、後悔のない生き方をしたいとか、周囲の人の為に少しでも感謝されるような生き方をしたいと考える。そういうことを考えたことがない人は、やはり結婚対象としてはまずいと思います。

そのような考えがない人と結婚したら奥さんが可哀想です。そして、奥さんも又、そういうことに関心がない生き方しかしていない家庭で育ったケースが多くなっています。両親が子供をタレントにすることだけを夢に見て、子どもを金ヅルに使うという発想のお父さん、お母さんが多いのが日本の一般的家庭です。

これでは未来がないというか、あまり未来が豊かに想定出来ません。

もっときちんとした人づくりをやっていくという考え方を日本人は持ちにくくなっているという気がするのです。

親が親なら子供がやはりこうならざるを得ないという、一般的家庭のイメージがやはり少し無思想だと思います。

まだ、ヨーロッパの人達の方が、真面目に真剣な問題と向き合っているという印象がある

のです。それでも離婚は多いのですが、しかしそこに何か思想的にものを考えるというこだわりを持っている人は、仮に離婚になってもその人は人間として非常に魅力的な人になっていきます。

ですから、年をとって恋愛をするような人になっていければ、価値観や思想性を大事にしている人には物凄く救いの機会が与えられるのです。日本人にはそれすらありません。いかに生活するかということしか念頭にない話題ばかりなのです。

「年金を僅かしかもらえない。これでは人生は真っ暗だ」などどいいます。「年金で、何で人生が真っ暗になるのだ。お金は大事だけれども、そんなことでないことでもっとものを考えろ」と言っても一般的に日本人にはできないのです。そういう教養がないから、そういうものの考え方で悩んだことがないのであります。

実際、本当に勉強していないのです。

哲学と思想に出逢わない限り自己人格には出逢えません。ですから日本人は 8 割方だめです。少し言いすぎかもしれませんが、日本という国はひどい国だなあと、此処まで墮落したかという気持ちになります。

しかし、現実には日本人には教養がないのです。自己人格の自己について説明を聴くような機会はなかったのですから、自己人格はありません。自我人格しかないのです。ですから、親子で財産の取り合いになり、夫婦で財産の分け合いになれば喧嘩になります。

日本の今の年寄りには子供と喧嘩をするのです。

日本の年寄りには、立派な人がいないのではないかという心配を本気でしたくなります。

自分が抜け出せないで困っているという人の悩みを聴けば、本当に悩んでいるテーマがあまりにも低いテーマなのです。

人間的なテーマではありません。

近代思想の間違いを、最も理想的な形で日本は受け容れたのです。ですから、今の日本は最悪の状態であります。近代思想の一番悪いところばかりをしているから、本当に救いがたい可愛そうな日本人です。

宗教映画を見ますと、今は、やはりヨーロッパの人が素晴らしいとわかります。宗教映画でなくてもヨーロッパの人のつくった映画は、人間とは何か、俺達はこんなに人間について不安がなくて良いのかということを教えてくれる映画ばかりです。日本の映画界ではこういう映画はありません。またアメリカ人はただドンパチうるさいだけの映画です。

今日本を代表する良い国際都市は博多だろうと思います。そんな印象があるのです。何を見てそう感じるのかといいますと、博多の比較的に人が集まるような場所を見ていると、非常に洗練されているのにびっくりします。大阪よりも遥かに道を歩いている人に町が優しいのです。人に優しいというテーマが無意識の内に、博多の人にはあるのだろうと思います。年をとれば博多で暮らしたいという人がいるのはわかるような気がするのです。

■「関係性」とは、優しさを求めた人間がたどり着くテーマ

人間は自分自身と向き合い、自分が本音でどんなことを期待して生きているのか、どんなことをやりたくて生きているのか、どんな生活が人間らしい心の遊びと心の余裕なのかを確かめ合い人間同士の関係性を模索する為に、お互いに尋ね合います。そのためには、どんな生き方の工夫が必要なのか、そういうこと考えて議論をすることは幾つになっても楽しいテーマなのです。

ですから、私たちは、自分がそのテーマを提言できる為に、もっと勉強をしなければいけないと思います。実際に生きていく人間の姿をもっと謙虚に学ぶという気持ちがそこになればいいのです。

関係性というのは、そういう優しさを求めた人間がたどり着く「これが私たちの安心できる条件なのだ」自分が「幸せだな」とか、「生きていて良かったな」とか、「こんな若い人たちの為に自分はお役に立てるのだ」とか、思えるようになるのです。

仲の良いカップルが道を歩いているのを見たら、「上手くやれよ」と言ってあげたくなるような人との絆の深さの大切さというものを次の次世代に伝えていかなければいけません。そういう内容を継承していく文化を継続して、たくさんの主人公がそこに常に居ないと歴史にならないのです。

たくさんの人が皆でつくっていく最高の課題は価値を生み出す課題であります。ここに整理した言葉は、生活の中に実感できるのです。自分の場合は物凄く恵まれた意識と考え方で、自分の生活をどんどんユニークな、創造性があり、かつ個性のある、自分らしさがきちんと反映した生き方を巡っての意見を交換できるのです。

そういう気付きを皆が持っていないと良い街(村・国・会社・家庭)づくりなんて出来ないし、本当に人が集まるところに知的な配慮がよく施された、都市であつたり街であつたり、田舎であってもそういうところで私たちは癒されたり、助けられたり、その地域の人とお

付き合いが始まることによって、今まで自分が付き合っていた人だけではない、非常に偏った人としか付き合ってきていなかった自分の生き方の不用意さに気が付くのです。

そういうことの問題について、問題意識を持っていなかったことを振り返って、「自分は馬鹿だな」と気付けることの価値は、非常に我々には必要なものだろうと思います。

だから、厳しいビジネスの世界で部下を育て、人材を育て、組織をより戦いに強い組織にしていかなければいけませんが、そこに人間としてロマンと夢と、もうひとつは自分らしい生き方として、何か一本筋が通った生き方や考え方というものが、自分の拘りみたいなものを形にしてこの価値観について考えていただく必要があるのです。

(3) 人間相互の關係に信頼が生じる場合、それは当事者相互の關係性の内容が必ず高められ、共鳴し、熱くなり、ひとりで孤独な立場に立つことが居たたまれなくなった時である。

一人で居る、孤独であることも良いのですが、「孤独は良いものだ」と語り合える友達がいたらより良いのです。本当に心の深い所でお互いが理解しあえる友達が、私たちには必要なのです。

価値観は、文化を議論する際の最も高度であり、最もポピュラーなテーマです。

そして、この内容は実に深い膨らみを背景に持っています。

価値観という言葉は、どのような大きなものでも吸収する力がある位、なかなか強かな魅力的な言葉です。

こういう言葉に匹敵する言葉はそんなにありません。

ですから、価値観という言葉は非常に大事にしなければいけないと、この機会にそう思っ
て頂きたいのです。

実は価値観が人間を支配しているという事を私は今盛んに言っています。

価値観がその人の人生の全てを決定的なものにします。

「価値ある生き方をしてきた」と本人が思える為には、価値観をきちんと学ばない限り不可能です。

価値観が大事だという理由は、最近の脳の研究でひとつわかってきました。人間の脳の機能に刺激を与える情報は、どんどん目から入ってくる、耳から入ってくる、手で触ることによって入ってくる。

外部環境から入る情報は全て受け容れられているのかと私は思っていました。入ってく

る情報を人間の大脳は全部受け容れて、そしてその情報を全部使つてものを考え、必要な判断の仕方をその情報から引き出し、情報を受け容れるとか、受け容れないとか、その後に入ってくる情報をどのように扱うことが一番効果的で価値があり、大事な成果を生み出すのか、そのような関係性で繋がっているのかと、私はぼんやりとしたイメージを持っていたのですが、**違うことがわかりました。**

人間は一旦大脳が様々な情報を目で見、耳で聴き、鼻で嗅ぐなど、様々な情報の取り入れ方があります。これを五感と言います。

そのようにして入ってきた情報を全部ストックして、判断のしどころを決め、後から入ってくる情報に対して、色々な判断を加えたり時々喧嘩したり、反発しあったりしているのかと思ったら**違います**。全部と言って良いぐらい大量な情報を殆ど一旦捨てます。

非常に簡単なイメージで殆どと言って良い位捨てるのです。無条件的にパッパッパッと捨てていきます。あまりにも大量な情報を捨てることに気が付いた学者は「何を基準に捨てているのだろう？こんなに大量に入ってくる情報をこんなに大量に捨ててしまうのは、必要でないから捨てたに決まっている」

許容量が少ないのではありません。一旦は受け容れるのですから物凄い容積があるので。巨大な容積があるにもかかわらず、一旦受け容れ、間もなくどんどん捨てていき、僅かなものを残すのです。

皆様、これが価値観だと分かったのです。これをメンタルモデルと言います。

そのようにして、我々は捨てるものと残すものを区別しています。それで、この情報は記憶として絶対に残しておかなければいけないものと、後悔がなく捨てる、徹底的に捨てていく、それが脳の機能の中にあることがわかった時に、メンタルモデル、日本的に表現すると、その人らしい価値観、価値に関する考え方の体系化されたものがあるのです。

これは仮説でしかありませんが、私はそういうものを読んで全くそうだと思います。人間は、結構小さい時から両親との関係性を通して価値観を与えられています。ですから、小さい子供でも2歳か3歳位でも、かなりはっきり必要なものと必要でないものを教えられるのか分かりませんが、そういうことです。

その無意識のうちに身に付いてくる価値観に対して、常に意識した状態で取り上げ非常に丁寧にチェックする必要性を人生のある年齢になった時がありますが、それが自我に目覚めたその後の世代です。

自我に目覚めた後、私たちは自己に目覚める体験がその次に控えています。しかし、それは思想や価値観のお話を聴いた時です。聴かなければ、いつまで経ってもその発想が出てきません。

考える時の考え方の手順が分からないから、それこそまさに知識として情報が不確かな状態でしか入ってきていないから、整理整頓出来る力を発揮するに至らないというか、そういう状況である可能性があります。

ですから私は、高校生の頃にこの価値観のお勉強をする事が、ひとつのタイミングとしては良いのではないかと思います。自我人格はすでに体験しており、自己人格というものを先生から一回じっくりとお話を聴かされる、自我では捉えきれない人間の心の領域の魅力、深さ、尊いものを求めていく生き方があるのだと教えられるときです。

ヨーロッパの人たちは、そこでキリスト教の教会へ行って、宗教的な話を聴きます。それが物凄く彼等に良い影響を与えています。

例えば、よく申し上げているのは、神父さんが子供にこのように話しかけます。「あなたの心の中には神様が住んでいるのだから、あなたはそのことを誇りに思えなければ駄目よ。あなたの自己という心の中に神様が住んでおられます。そのことを感謝して、神様がそこにおいでになるということは、あなたが立派な人だから神様があなたの心に入ってくるのです。

あなたが立派な心の持ち主でなかったら、神様はあなた**が**ガードして入らないのです。神様は、神様が必要な人にしかその人の心の中に入っていないというルールがあるのです。」というお話をするので。

それで、「あなたは常に神様に『いらっしゃいませ』とお迎えする心の用意がないと駄目なのです。そして、神様はあなたに拠り所を与えてくれ、正しいことを信じなさい。間違ったことは間違っていると認めなさい、自分の間違いを誤魔化してはいけません。自分が正しいと思うことは神様に相談出来るから、相談してこれが正しいか正しくないかを決めれば良いのです」と教わります。

やはり子供は単純ですから、自分が幸せになりたいのです。周りの人と愛を共有したいのです。「どんなお友達とも仲良くなりたい、可哀相な人ほどその人を大切にして自分の大事なお友達にしたい、苦しいことで悲しんでいる人は勇気を与えてあげられる自分でありた

いと思う時、その時にあなたの心の中に神様がいたら、あなたは神様と相談できるのです。そして、どうしたら良いのか神さまに尋ねたら、ちゃんと教えてくださるのです」と話をしてくれるのです。

この子は、お母さんの為に、お父さんの為に祈るのです。「どうして?」「お父さん病気なんです。お父さんは今仕事が忙しくて、会社へ行きたいのだけれど、病気でいけないのです。だから、神さまにこれはお願いして、病気が早く直るように私はお祈りしているの。それで、最近お祈りが効いてきました。

やっと私の願いを神様は受け容れてくださるようになって、お父さんが元気になってきて、昨日から会社に行っているのです」幸せそうな顔して、「みんな、私のお祈りのせいなのです」と言っているのです。

それで、お父さんが帰ってきたら「お父さんどう思ったの? 今日一週間ぶりに会社に行って幸せだった?」「幸せだった」「これは、みんな私が神様にお願いしているから、お父さん元氣になれたのよ。それを認める?」と言うのです。

お父さんは「認めるよ。もちろんだ」ここら辺りが非常に親子の気持ちが通じているのです。「祈ってくれたら、病気がすぐに治るものな」

そうは問屋が卸しません。祈っただけで病気が治るのであれば、お医者さんは要りません。子供は子供で知っているのですが、違うのです。「そうだよね」と子供が声をかけるとお父さんも同じ立場で「そうなんだ。お祈りって良いよな。人間の心を豊かにするからね」「そうだよね」「お祈りをしている時のお父さんは最高に優しいものな」「今なんて言った? 皮肉を言ってるの?」「ちょっとだけ、皮肉で言っているの」と、親子でそういう会話が出来るということは、自己にとって物凄く良いのです。

自己を健全な状態にしておく必要があります。

ここに、この自己をめぐっての対話が必要だということです。

自己の世界を健康な状態にしておく為に、会社(社会)で傷付けられた傷を癒すのに親子の間でそういう会話が役に立つのです。

日本人の自己人格は傷ついてボロボロになって、ズタズタに傷だらけにされてしまっているのです。それを癒してくれる話題が家庭で出てこないのです。

しかし、ヨーロッパの小学校5年生、6年生位までの子供とお父さんとの会話の中で必ず

出てくるのは神様です。「神様がちゃんと見ているから、お父さんは心配ないよ。」と言って励ますのです。小学校5年生なのですから、ある程度何かわかっているところもあります。

でも、その子が「お父さん、お祈りしているから大丈夫よ」と。何故、大丈夫と言えるのか？誰からその話を聞いたのか、お父さんは知りません。多分この子は親の知らないところで、単独で教会へ行って牧師さんとか神父さんとかと間違いなくコミュニケーションをとっているのです。ヨーロッパの子供は自立が早いですから、一人でお参りに行って一人で話してくるのです。

ですから、「お父さんが病気でこうで神様はこれを治してくれるかな？」と神父さんに相談するのです。「もちろんだよ。」その時無責任だと思いませんか？治るか治らないかわからないのに「もちろんだよ」なんて。神父さんも神様を信じているのです。

日本のお坊さん仏様を信じていません。しかし、向こうはどこか信じているところがあります。ですから私は宗教対話で彼らと接点をつくって話をしますと、非常にそれがよくわかります。信仰心が本物です。

皆様もやはり色々な宗教者に出逢うといいと思います。色々な宗教家と胸をたたいて話し合うと、その人の生き方などもそこに出てきますし、面白く楽しいときもあります。楽しいお話にして、やはり大事な気づきがお互いにあれば、それは大人の会話ですから、何かそこにいいものが残れば最高です。

日本人は、宗教は悪いことはあっても良い事にはならないと思っていますけれども、実は全然そのようなことはありません。変な宗教家に引っかかってしまう、あれは悪魔ですけども、そうなればイメージができてしまって非常に不幸な人生になるのですが、良いイメージの人と出逢うと宗教も決して悪いこともないのです。

人間は自己の心の中に絶対的權威が宿っています。

それが信じられるかどうかで人格を豊かにすることができるかできないかを決めます。

弱いものに対して優しく、そして強さを復権させたいのです。

強い生き方をその人自身の中から見出してもらえる、自己の中に強い自己を発見して頂く必要があります。

文化の原点は全て宗教です。こう考えるのは日本人を除くヨーロッパとアメリカの文化人類学者の一致した見解なのです。日本人だけはこれを認めません。如何にももの考え方が半端かということです。

もちろん宗教界の中に良くないものもあって、そこから守らなくてはいけないという社会正義があって宗教について語る人が少ないのかもしれません。ただ、宗教学者が宗教について実存的な宗教を知らないということも確かです。

宗教の本質的な実存的価値について、一言も説明したことになっていない宗教家が日本人には非常に多いのです。やはり私は、日本のカトリックの神父様よりもヨーロッパの神父様の方に魅力を感じます。自分に嘘をつかないからです。

本当にこちらが宗教家だと分かったら尚のこと絶対本音で思っていることしか言いませんから魅力的です。ですから、ヨーロッパへ行ったら宗教家とお友達になって帰ってきたら良いのです。

こういう価値観が宗教によって生まれてくるのかと皆さんはびっくりされます。学生たちがやはり若いときに皆宗教家と出逢います。ドイツなどでも、高校生などもいろいろな宗教家と出逢って良い影響を受けています。

日本にはそれがありません。日本の若者が可哀想だなと思います。

でも、いくつになってもそういうものに興味を持ちさえすれば、門をたたいて教会を訪ねたり、お寺を訪ねたりしようと思えばできないわけではないのですから、やはり、ご本人の問題だということでしょう。

高い価値観を深く学び実践に活かす！

高次元経営 実践勉強会 第4期 DVD 販売決定！

「受講した内容を繰り返し視聴したい」

「大切な人(社員、ご家族、友人)と共有したい」

「高次元を知人に紹介したいが伝え方がわからない」

というご意見を多数いただき、第4期 DVD の販売を決定しました。

DVD セット

受講生
限定販売

全8講 定価:165,000 円(税込)

第4期受講生限定:82,500 円(税込)

※ご本人様の継続的な学習、大切な方々へ思想学習を共有し広めていただくために
お役立てください。そのため必ず購入者ご本人管理のもと共有いただき、
貸出しなどはご遠慮ください。

※高次元経営の受講生のみ購入可能な商品となります。

※HP より第1期～第3期の DVD も発売中です

■お申込みはこちら



<https://nipponteki.com/high-dimensional/dvd04/#form>

〈お知らせ〉

高次元経営 第Ⅴ期 スケジュール

第 1 講～第 3 講 終了

今回の講義

第4講	2024年8月23日（金）	本編③	[二]有機体システム思考がいかなる問題解決も可能にする ①システム思考(統合思考)に基づく問題解決 その1 ②システム思考(統合思考)に基づく問題解決 その2
第5講	9月頃、2回に分けて 配信致します。		補講+質問会Ⅱ
第6講	2024年10月19日（土）	本編④	[三]経営現場における全体と部分の関係性による法則 ①部門ごとに相互の関係性の法則が見直される ②部門横断の境界的課題が抜本的に解決される ③専門間協力の全体的成果が補完協働により保証される
第7講	2024年12月18日（水）	本編⑤	『理 念』について
第8講	2025年3月3日（月）		補講+質問会Ⅲ

※講義の内容は現時点での予定です。その時の①世界情勢、金融情勢等々の動きによって②受講生からの

感想文や質問内容によって、タイムリーで適切なテーマに変更することがございます。ご了承ください

※本編の時間につきましては、当初の予定から変更する場合がございます

■感想文をご提出ください

その感想(気づき)が、あなたと同じ価値観を持った人との出逢いをつくり、
そのあなたの感想(気づき)があなたの最大の価値となります。
どんな間違いに気づき(これまで何を正しいと思っていたのか?)、
その自己との対話(言及)が
現実に必要な出逢いを創り出し、現実(環境)を変革します。

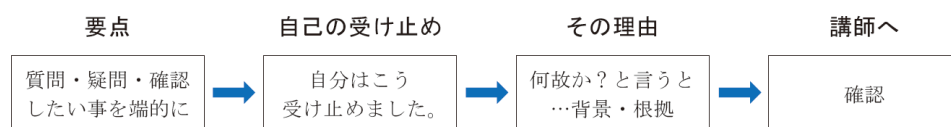
■質問について

学んだ思想をあなたの思考原理として実践するために
思想を通して言語概念化した問題意識を質問としてご提出ください。
頂いたご質問は、各講義又は質問会にてお答え致します。

リアルなビジネスの現場に於いて発生している不安や問題を
「質問」するために言語概念化し、
講師との対話を通して、自己と向き合うことで、
思想への確信が深まり、
実践するための思考原理の確立に近づきます。

是非、直接講師に質問できるこの機会を
学んだ思想を実践する為の確信を深める場として
ご活用ください。

『思想・価値観学習』に於ける質問の仕方



下記要件で、A4 2枚以内におまとめの上、Word(office)にてご提出をお願い致します。

余白：標準 フォント：MS明朝 フォントサイズ：10.5

※感想文と質問の提出期限と提出方法につきましては、最終ページにてご確認ください。

※受講生からお寄せいただいた質問等が多数がある場合は、全てにお答え出来ませんことを、
予め、ご了承くださいませ。

■本日のタイムスケジュール

13:00～13:30	受付・WEB 入室可能時間
13:30～14:30	前講（60 分）
14:30～14:50	休憩（20 分）
14:50～15:50	後講（60 分）
※以下参加希望者のみ（当日参加可能）	
16:10～17:40	GD(グループダイアログ)※ グループに分かれて対話を行います。

※申込されていない方は、当日受付に申し付けください。

受付にて、チーム分け及び会場をお伝え致します。

■感想文、質問については

後日メールにてお送りする様式に記載し下記 URL からアップロードし、
ご提出をお願い致します。

期限：9 月 6 日（金）12 時まで

<https://lstep.app/form/27848/KDLunS/544738>

高次元経営 第 5 期

🔍 検索

詳細はアーカイブ配信メールにてお知らせします。

お問合せ：一般社団法人 日本的経営研究会 事務局

Mail : info@nipponteki.com

URL : <https://nipponteki.com/>